

▽地域の明日を拓く△

このまちで暮らしを楽しみ、 このまちを大切にして



株式会社くらしすた不動産
(矢巾町)
代表取締役

星 洋 治

▽くらしすた不動産

夫婦2人で始めた不動産会社の紹介です。「くらしすた」って何？名刺交換をするとこのような質問をよく受けます。私たちは、日々の暮らしを楽しむ人々を「くらしすた」と呼び、不動産を通じて「くらしすた」を応援する企業でありたいという願いを社名に込めました。

私たちがどのようにして「くらしすた」を応援しているのか、この場を借りてご紹介します。

▽「愛ある賃貸」

カスタマイズ賃貸住宅という新しい市場を創造した青木純さんとの出会いは、私達にとつ

てとても大きな出来事でした。青木さんは空室率30%に近づいていた中古賃貸マンションを自由なアイデアと仕掛けで行列（入居待ち）のできる賃貸マンションへ再生するなど、リノベーションの先駆者としてご活躍されています。

皆様は、賃貸住宅についてどのような印象を抱いていますか？「持ち家を持つまでの仮の住まい」と思っている方が多いのではないのでしょうか？

かく言う私も、そう思っていた時期があります。賃貸は持ち家に比べると性能・機能・デザイン等が劣っているかもしれない、というある種、あきらめのような、先入観を感じさせます。でも、これって、賃貸に愛が無いということですよ。

「愛ある賃貸」に取り組もう。その思いが矢巾町の「ヒカリハイツ」や「ハロープレイ

ス」という賃貸住宅を誕生させました。これらの賃貸住宅は住まい手に壁紙を選んでいただきます。最初は白い壁紙でよいと言った方にもあえてカラフルで個性的なものをお勧めします。壁紙選びを楽しみ自分色の空間で暮らしを楽しめるカスタマイズ賃貸です。また、この賃貸は猫好きな住まい手さんにも猫と一緒にくらしを楽しんでいただけます。インテリアの一部になるキャットウォーク&タワーを備えました。実を言うと私たち夫婦も1匹の猫（子）と暮らしを楽しんでおり、その様な楽しみを賃貸でも実現させたいと思ったのです。

これらの賃貸住宅は、住まい手の方々が暮らしを楽しみたいという明確な意思のもとに選んでいただいているように感じます。そして、その方が退去されるとき、その空間を愛し大切に使っていたことがわかるのです。

また、昨年から紫波町の「オガールネスト」という賃貸住宅にも関わらせていただいております。こちらは、オーナー様の明確なコンセプトのもとに企画運営されておりまして。まず、住宅の断熱性能は国が定める次世代省エネルギー基準を遥かに超える紫波型エコハウス基準を満たしており、冬暖かく夏涼しい1年を通して快適な住空間です。また、コミュニティ空間として各住人が自由に使えるシェアリビングを備えております。この空間は、住人達が食べたいものや飲みたいものを持ち寄り住人同士が楽しむパーティースペースとしても使われます。管理者である私たちも仲間に入れていただき、楽しいひと時を過ごしております。

その他、土地柄、学生さん向けの賃貸住宅にも関わりを持っております。住まい手ではありませんが、遠くにお住まいになるご両親の心配事を少しでも払拭できるよう努めるのも我々の役割ではないかと思っております。

私達の活動にはまだまだ足りないことがあります。少しづつ「愛ある賃貸」に関わっていきたくと考えております。

※「愛ある賃貸」の提唱者はホームズ総研の島原万丈さんです。青木純さんを介してこの言葉に出会いました。

「十三日（ユルカ）」と「Kurumi apartment（クルミアパーメント）」

盛岡市肴町に十三日という築120年を超えると思われる建物をリノベーションした複合施設があります。盛岡好きが高じて東京と盛岡で2拠点生活を送る浅野聡子さんの呼びかけの下、私たち夫婦もそのプロジェクトに参加いたしました。十三日には2つの飲食店とシェアオフィスがあります。飲食店では町の人々が食事と会話を楽しみ、シェアオフィスでは新たな事業がメンバーたちのもと生まれております。

このプロジェクトに参画した経験があったからだと思いますが、矢巾町内においてあ



リノベーションした kurumi apartment

る相談を受けました。駅前で45年間営んだ電気店の建物の活用です。ご夫婦2人で長年営んできた大切な建物を私達に託してくださいました。その建物は、断熱改修を施し、「Kurumi apartment」として、まちの人々が暮らしを楽しめる新たな交流拠点となりました。少しでもご興味ある方は是非とも訪ねてみてください。

これからのくらしすた不動産

くらしすた不動産は現在私を含め7人のスタッフで活動しております。これまでの活動に加えて「エコハウス・エコタウン」の開発や公有地の活用等への挑戦も視野にいれております。

フランスの作家サン・テグジュペリ氏が残した言葉に、「地球は先祖から受け継いでいるのではない、子供たちから借り受けているのだ」という言葉があります。なるほど、そう考えるとこの地球を大切に使用しなければいけないという思いが一層深まります。もっと身近なことですと、私達が暮らしを楽しんでいるこのまちも同様に大切に将来、子供たちに返さなければなりません。そのようなことを思うと身も心も引き締まります。私達は、この言葉を道標に、くらしすた不動産を続けていきます。